

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

参画クラスター	モジュール	モジュール長	モジュール長所属部局
資源循環クラスター	資源循環	笹木 圭子 教授	工学研究院
	資源開発	島田 英樹 教授	工学研究院
	機能性天然素材開発	清水 邦義 准教授	農学研究院
	持続的水圏食料生産	太田 耕平 准教授	農学研究院
都市クラスター	Planning & Design	坂井 猛 教授	キャンパス計画室
	鉄のグローバル・ヒストリー	井上 朝雄 准教授	芸術工学研究院
	Mega Region	相澤 伸広 教授	比較社会文化研究院
	Governance	出水 薫 教授	法学研究院
	Inclusive Wealth	馬奈木 俊介 教授	工学研究院
生存基盤環境クラスター	生物・文化環境	荒谷 邦雄 教授	比較社会文化研究院
	分子・生命環境	関 元秀 助教	芸術工学研究院
	地球・生物圏環境	市川 香 教授	応用力学研究所
	環境経済・経営	加河 茂美 教授	経済学研究院
医療・健康クラスター	遠隔医療	森山 智彦 准教授	病院
	PHC	中島 直樹 教授	病院
	エイジング	肥後 裕輝 教授	留学生センター
	ストラテジックメディカルデザイン	平井 康之 教授	芸術工学研究院
	満たされない医療ニーズ	戸高 浩司 教授	病院
セキュリティー・防災 クラスター	セキュリティー	鬼丸 武士 教授	比較社会文化研究院
	防災	三隅 一百 教授	比較社会文化研究院
	3ZERO	アシル アハメッド 准教授	システム情報科学研究院
文化変動クラスター	文化遺産	宮本 一夫 教授	人文科学研究院
	情報	大賀 哲 准教授	法学研究院
	アジアー日本	野々村 淑子 教授	経済学研究院
	接続・モビリティ・教育	木村 拓也 教授	人間環境学研究院

資源循環クラスター



アジア・オセアニア地域における資源・環境循環型社会システムの構築をめざし、以下の研究活動を行っています。

- ① 開発対象外鉱石および都市鉱山からのバイオテクノロジーを活用した有価金属の回収技術イノベーション
- ② 未利用鉱石中の忌避元素と有価金属の分離技術の開発および忌避元素の固定化技術開発未利用鉱物の機能性環境浄化剤としての開発研究(光触媒複合体における粘土鉱物の役割の解明)
- ③ 後発 ASEAN 諸国、南アジアにおける持続的な鉱物資源開発のための資源政策・鉱山開発技術の確立および資源開発リスク評価法の確立
- ④ アジア天然素材(動植物・微生物・昆虫・農林畜水産物・鉱物・民間伝承情報・生物多様性情報など)の機能探索と社会実装

モジュール一覧

- ◆ 資源循環モジュール
- ◆ 資源開発モジュール
- ◆ 機能性天然素材開発モジュール
- ◆ 持続的水圏食料生産モジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	資源循環クラスター	Resource Recycling Cluster
モジュール名 /Module	資源循環モジュール	Resource Recycling Module
モジュール長 /Leader	笹木 圭子 教授	Prof. Keiko SASAKI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・超難処理金鉱石のミネラルプロセッシングの最適化を進め、環境負荷を最小化し、金回収率を最大化するプロセスを提案する。統合的鉱物解析手法の経験豊富な南オーストラリア大学と一部を共同ですすめていく(科研国際(B))。 ・タイ・チェンマイ大学を中心としたグローバルパートナーシップの助成による日・英・米・マレーシア・タイの5カ国国際プロジェクト「グリーンテクノロジーによる農業フリー農業の開拓」に参画し、農業の分解に向けた鉱物を助触媒とした光触媒複合体の開発に取り組む。 ・豪州・カーティン大学と大学間(学術・学生)交流協定締結を完了する。 ・あらたに中国鉱業大学(中国国家重点大学211工程)との部局間交流協定の準備を進める。
English (about 150-200 words)	<p>*Mineral processing of double refractory gold ore is optimized by minimizing the environmental impact and maximizing the gold recovery. It is partially collaborated with University of South Australia (JSPS Kokusai(B)).</p> <p>*In the "Global Partnership - Green Technologies for Pesticide-free Agriculture", Thailand Project, Kyushu University is one of the involved members in five countries (Thailand, Malaysia, USA, UK, Japan), where we develop the novel photocatalyst composites using clay minerals as cocatalysts.</p> <p>*MOU with Curtin University will be fastened in a whole university level in 2021.</p> <p>*Additionally MOU with China University of Mining and Technology (CUMT, China National Key Universities, No. 211) will be started negotiating in a faculty level.</p>

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
広く実用化されている金鉱石からの金抽出剤であるシアンに置き換わりうる低環境負荷抽出剤の検討をおこなう。豪州カーティン大学、CSIRO,南オーストラリア大学の協力を得る。	低環境負荷の金抽出剤の探索およびその抽出条件の検討、さらに適合する金鉱石のタイプの特徴を明らかにする(科研国際(B))。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>低環境負荷型金抽出剤として、チオ尿素、エチレンチオ尿素を選び、異なる3種類のタイプの金鉱石を試し、鉄成分の少ない金鉱石に対してとくに有効であることが分かった。鉄成分の多いものはそれを除去する前処理を行えば、抽出率が向上することも確認でき、これについて論文を発表した。豪州カーティン大学には金鉱石の試料提供を受けたものの原鉱であったため、精鉱の提供を依頼している。</p>
残留除草剤や残留農薬を光化学反応で分解する触媒の開発を鉄鋼スラグを原料としておこなう。タイ・チェンマイ大学を中心とした日・英・米・マレーシア・タイの5カ国国際プロジェクト「グリーンテクノロジーによる農業フリー農業の開拓」に参画し、当クラスター機能性天然素材開発モジュールとも協働する。インドおよびタイからJSPS外国人特別研究員を受入れ、このテーマの一部を共同で進める。	鉄鋼スラグを主原料として可視光応答型の光触媒を開発し、非選択型除草剤パラコート(ピピリジニウム系)や農薬イミダクロプリッドの分解に応用する。鉄鋼スラグの大部分を占める高炉スラグおよび転炉スラグそれぞれについて異元素ドーピング型ハイドロキシアパタイトに転換し、鉄鋼スラグ由来の当該光触媒複合体の特徴を明らかにする。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>鉄鋼スラグ(高炉、転炉)を主原料とした可視光応答型光触媒を合成し、農薬の分解、六価クロムの還元反応への応用を行い、Fe元素ドーピング型のハイドロキシアパタイトのFeドーピング量の最適化を行った。転炉については界面活性剤の分解に応用した例につき論文公表を行い、高炉については学会発表を行った。糖の転換反応への応用を次年度の課題としている。</p>
中国鉱業大学(中国国家重点大学211工程)から若手研究者を12か月受け入れ、光触媒メントの開発を実施し、これまでの研究交流を進展させる。	訪問学生は先方大学の博士課程に在籍する正規生である。本学での成果が当人の学位論文の成果の一部となるよう、SDGs社会に貢献するセメント材料として光触媒機能を付与した新規セメント材料の開発を行う。	<p>目標達成度：Ⅱ</p> <p>訪問学生の来日がコロナの影響により大幅に遅れ、2023年1月から研究開始となった。来日後に先方の指導教員も交えて本人のこちらの仕事について相談をした。中国で廃棄が問題となっている石炭ガス化スラグを活用したジオポリマーを中国鉱業大学にて開発しており、本学では今年度これに対する溶出試験を行った。そのうえで次年度は引き続き、光触媒と複合化し、カーボンニュートラル促進のための糖から酪酸への転換反応の光触媒の開発を目指す。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://process.mine.kyushu-u.ac.jp/JSPS-NRF/
https://process.mine.kyushu-u.ac.jp/Achievement.htm

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	6 件
単著論文	0 件
共著論文	26 件
学会発表（国内）	12 件
学会発表（海外）	22 件
交流関係	4 件
教育活動	0 件
協定	0 件
特許	2 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	資源循環クラスター	Resource Recycling Cluster
モジュール名 /Module	資源開発モジュール	Mining System Module
モジュール長 /Leader	島田 英樹 教授	Prof. Hideki SHIMADA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	各種金属鉱山の環境負荷低減型坑内掘開発を目指し、ASEAN諸国における持続的な鉱物資源開発のための資源政策・鉱山開発技術の確立および資源開発リスク評価法の確立を目的とし、2021年度はラオス、モンゴル、中国を重点的に現地機関との協力関係を構築する。
English (about 150-200 words)	For sustainable mineral and fuel resources development in ASEAN and ASIAN countries such as Laos, Mongolia, and China, to establish the infrastructure maintenance, to prevent disaster, to suggest policy about resource, and to develop mining system.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
ウズベキスタン、ラオス、中国の現地鉱山会社や鉱山省とウェビナーによりワークショップおよび国際共同研究に関する打ち合わせを行った。また、地下の未利用資源の活用および低炭素社会の実現に向け、北海道で実施された二酸化炭素の地下貯留のプロジェクトに参画した。	ウズベキスタン、ラオス、中国を重点的に現地機関との協力関係を構築するため、海外の現地鉱山会社や鉱山省とのウェビナーにより国際共同研究に関する打ち合わせを行うこと、これまでのトンネル掘削技術に関する共同研究で得られた知見を用いた学会等の招待講演による海外技術者の教育活動、地下の未利用資源の活用および低炭素社会の実現に向けた採掘システムの提案および二酸化炭素の地下貯留のための現場視察を実施する。	目標達成度：Ⅳ
		ウズベキスタン、ラオス、中国のウェビナーに関して、特にウズベキスタンではウズベキスタン・日本青年技術革新センター研究能力強化プロジェクト(UJICY)との活動の中で、現地鉱山会社を交えたワークショップに参加し、現地鉱山会社との今後の共同研究に関して意見交換を行うことができた。また、低炭素社会の実現に向けた活動として、国内の採掘跡にCO2マイクロバブル水を注入する国内初のプロジェクトに参画し、その活動を支援することができた。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://
https://
https://
https://
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	1 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	7 件
学会発表（国内）	5 件
学会発表（海外）	5 件
交流関係	2 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2023年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	資源循環クラスター	Resource Recycling Cluster
モジュール名 /Module	機能性天然素材開発モジュール	Functional Natural Products Module
モジュール長 /Leader	清水 邦義 准教授	Assoc. prof. Kuniyoshi SHIMIZU

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	アジア・オセアニア地域の自然素材ならびに関連情報（植物、微生物、昆虫、農林畜産物、水産物、鉱物、伝承情報、生物多様性など）に関する学際的な研究を分野横断的に推進する。一連の取り組みを通して、様々な視点からのアジア・オセアニア天然素材の活用につながる、新技術や新事業を産学連携により創出し、社会実装を目指す。
English (about 150-200 words)	Multidisciplinary research on natural materials and related information (plants, microorganisms, insects, agriculture, forestry and livestock products, marine products, minerals, folklore information, biodiversity, etc.) in the Asia-Oceania region will be promoted. Through a series of efforts, we aim to create new technologies and new businesses through industry-academia collaboration that will lead to the utilization of natural materials from Asia and Oceania from various perspectives, and aim for social implementation.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
これまでにアジア地域の機能性食品、化粧品、生薬、トイレタリー等への応用が可能な生理活性天然物機能解明研究を進めてきた。コロナ禍となり、対面での国際会議開催が困難となった。いち早く、2020年5月21日に、完全オンラインのAsian Natural Products Conference (ANPC: https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/shinrinken/anpc/)の第一回を開催し、現在までに、10回実施した。さらに、次年度、3か月に一回のペースで4回開催する予定である。その会議を通じて、専門分野のみならず、異分野ならびに産学ネットワークをさらに強固なものにし、九州大学が中核となり、共同研究を開始し、大学間・部局間の新規学術・学生交流協定の締結を目指す。さらに、発表者の承諾を得たのち、本国際会議での講演内容についてYouTubeでの限定公開システムを用いて、本学会メンバーならびに賛助会員企業内での公開システムを構築し、持続的に継続可能かつ発表者・聴衆参加費無料の完全オンライン学会システムの構築にもチャレンジする。	オンライン国際会議を4回開催する。 (持続的に継続可能かつ発表者・聴衆参加費無料の完全オンライン学会システムの構築を行う。) 国際的な共同研究を新たに構築する。 大学間・部局間の新規学術・学生交流協定を締結する。	目標達成度：Ⅳ オンライン国際会議 (Asian Natural Products Conference)を、4回 (第11回6月17日、第12回7月28日、第13回8月29日、第14回11月11日) 実施し、好評を博した。 中国薬科大学、Mulawarman大学 (インドネシア)、ITS (インドネシア) と、認知機能改善天然素材開発研究、ハリナシミツバチ研究、薬用キノコ (靈芝) に関する共同研究を実施した。 部局間の学生交流協定を活用し、中国薬科大学から2名の学生を受け入れた。 ポゴール農業大学からの留学生を受け入れ、大学間・部局間の交流協定に基づいた活動の活性化に寄与した。
昨年度、インドネシアの複数の大学と新たに学術・学生交流協定を結び天然素材機能開発研究共同研究・教育活動をスタートさせた (ムラワルマン大学 Prof. Enos Tangke Arung, インドネシアの針なしミツバチのはちみつ製品 (ハチミツ、プロポリス) プロジェクト、セプル・ノーベンパー工科大学、Prof. Sri Fatmawati, 薬用キノコ (靈芝) プロジェクト)。次年度も継続して共同研究・教育活動を発展させる。また、部局間学術・学生交流協定を締結済みの中国薬科大学との薬用植物機能解明プロジェクトについても、共同研究・教育活動を加速させる。	アジア諸国を中心とした国際共同研究を進展させ、国際学会での発表を行うとともに、共著論文を、複数出版する。 共同研究を実施しているアジア諸国からの留学生を研究室に複数か月受け入れ、共同研究を実施する。 共同研究の有無に関わらずアジア諸国等海外から複数の留学生を研究室に受け入れ、研究・教育を行い、将来の国際共同研究の礎とする。 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) などに応募し採択を目指す。	目標達成度：Ⅳ 国際学会における招待講演は、インド、インドネシア等にて、3件行った。 国際共同研究として、Mulawarman UniversityのProf. Irawan Wijaya KusumaとProf.Enos Tangke Arungを、2023年3月に2か月間訪問してもらい、九大の設備を活用した共同研究を実施した。また、インドネシアのITSのProf. Sri Fatmawatiが、同月2週間インドネシア産天然素材の研究を実施した。Prof. Enos Tangke Arungとのハチミツの研究成果が、2報の論文として出版された。留学生を含む国際共同研究による共著論文は、32報であった。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://q-aos.kyushu-u.ac.jp/cluster/resource-development/241/
https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/shinrinken/
https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/shinrinken/anpc/
https://
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	4 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	3 件
単著論文	0 件
共著論文	32 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	7件
交流関係	3 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	資源循環クラスター	Resource Recycling Cluster
モジュール名 /Module	持続的水圏食料生産モジュール	Sustainable Aqua-food Science Module
モジュール長 /Leader	太田 耕平 准教授	Assoc. prof. Kohei OOTA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	水圏生物資源を利用した食料生産システムにかかる研究開発を行い、アジア・オセアニア地域の研究機関などとの連携により社会実装を進めていく。地球温暖化等による気候変動に適応した持続可能な養殖生産と水産資源管理、海洋汚染・赤潮対策を含めた水圏生産環境の保全、新しいバイオテクノロジー等を用いた育種・健苗育成・疾病対策、未利用生物資源の効果的利用、水産物の消費動向調査による水産研究・技術シーズの発掘、および水産研究・技術に対するパブリック・アクセプタンス（社会的受容性）の評価など、水圏における持続的な生物生産およびその利用に関する研究と技術開発を展開する
English (about 150-200 words)	Fisheries and aquaculture are culturally embedded into asia-oceania people and society. We, through this module, will be engaged in multilateral collaborative research and development, and community scale implementations programme across various stakeholders in asia-oceania region for steady and sustainable socio-economic upliftment of this area. We will actively participate in sustainable aquaculture production, global warming and other climate responsive fishery resource management, aquatic production environment conservation, marine pollution and red tide management, effective utilization of unused biological resources, new biotechnology-based breeding, nursery raising, disease control and profitable aquatics activities. We will also involve in research and technological development on sustainable biological production and utilization in the aquatic environment, including the discovery of seeds of fishery research and technology through surveying the trends of marine product consumption and evaluating the public acceptance of fisheries research and technology.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
Ⅲ：目標を十分に達成している
Ⅱ：目標を十分には達成していない
Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
養殖生産技術についての研究開発を行う。魚類、無脊椎動物、藻類等の水圏生物の生産技術について、生産性向上のためのシステム高度化、未利用資源の餌料等への効果的利用、新しい育種技術にかかる研究開発を推進する。	養殖生産を効率化するためのゲノム編集技術と生殖幹細胞操作等による育種技術の開発、および昆虫飼料に関する研究開発をマサバなどを用いて行う。ウニ類や二枚貝類などの水産無脊椎動物の品質と生産性向上に向けた養殖技術開発、および未利用生物資源を餌料として利用加工する技術の開発を行う。	目標達成度：Ⅳ マサバを養殖魚のモデルとしてゲノム編集技術と生殖幹細胞操作による育種技術の開発を行い、関連する成果を国内外の学会で発表した。また、昆虫原料を利用した飼料の開発、ウニやカキ等の水産無脊椎動物の養殖技術開発を推進した。クローバーやタケノコ等の未利用生物資源を餌料とした養殖技術の研究開発についても行った。磯焼け海域で駆除されたウニを蓄養する産学官連携協定を締結し、共同研究を開始した。
水圏食料生産に関わる海洋環境の詳細なデータ取得と分析を行う。生物の生産基盤となる環境に関して、陸域と深海を含めた海域との間での物質輸送、海域の長期水温変動データ等に基づいた温暖化が水圏食料生産に及ぼす影響の解析、水圏食料生産の現場における海洋汚染や赤潮・魚病等への対策を推進する。	陸域と深海を含めた海域との間での物質輸送、および、海域の長期水温変動データを取得する。また、水圏食料生産の現場における海洋汚染や赤潮・魚病等の長期的課題を抽出し、その対策に係る研究開発を行う。	目標達成度：Ⅳ 陸域と深海を含めた海域との間での物質輸送、および、海域の長期水温変動データを取得し、サイエンスカフェ等で市民や関係する研究者等との情報共有を行った。また、マイクロプラスチック等の水圏食料生産の現場における海洋汚染や赤潮・魚病の対策に係る研究開発を行った。
アジア地域の研究機関との養殖生産や海洋環境に関する情報交換や共同研究を行う。将来の持続的な水圏食料生産に不可欠となる魚類、無脊椎動物、藻類等の養殖技術および沿岸域の環境情報解析についての情報交換を対面やオンラインで行うとともに、共同研究を推進する。	インド、フィリピン、中国、ベトナム、バングラデシュなどの研究機関との魚類、無脊椎動物、藻類等の養殖技術および沿岸域の環境情報解析についての情報交換を行うとともに、共同研究計画を立案する。	目標達成度：Ⅳ インド、バングラデシュ、フィリピン、中国、ベトナムなどからの訪問研究員や留学生の受入を行った。ベトナムでの省エネ型エビ養殖システムに関するプロジェクトに参画し、現地の研究機関と共同研究体制を構築した。また、インドネシアの大学が主催する国際教育プログラムの科目を担当するとともに、インドで開催された水産研究に関する国際学会の開催に協力し、参加した。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	3 件
共同研究	5 件
単著論文	0 件
共著論文	10 件
学会発表（国内）	14 件
学会発表（海外）	6 件
交流関係	8 件
教育活動	5 件
協定	1 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

都市クラスター



SDGs 目標の一つである「包摂的で安全かつレジリエントで持続可能な都市及び人間 居住の実現」に向けて、アジア地域の多元性、多様性、移動性を重視したフィールド課題解決型の実践的教育・研究を推進し、21世紀アジア地域の居住環境づくりを支援できる都市分野の国際人を育成すると共に、長期的に取り組むべき社会的課題の発見と新研究領域の創成を目指し、アジア地域の持続可能な発展における九州大学の先導的役割を果たします。

モジュール一覧

- ◆ Planning & Design モジュール
- ◆ 鉄のグローバル・ヒストリーモジュール
- ◆ Mega Region モジュール
- ◆ Governance モジュール
- ◆ Inclusive Wealth モジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	都市クラスター	Urban Cluster
モジュール名 /Module	Planning & Designモジュール	Planning & Design Module
モジュール長 /Leader	坂井 猛 教授	Prof. Takeru SAKAI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	学術研究都市づくりの進む糸島半島等をフィールドとして、課題解決型の実践的教育・研究を行い、SDGsに配慮した都市活動の場を計画設計できる国際人育成を目指します。
English (about 150-200 words)	Aiming to develop international people who can plan and design a place for urban activities in consideration of SDGs by conducting problem-solving practical education and research in the fields such as the Itoshima Peninsula, where academic research city is being developed.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
九州大学伊都キャンパスと学術研究都市のこれからのフォーカスをあてたイベントを開催し、伊都キャンパスと市街地、田園と海岸部からなる糸島半島の魅力を十分に活かしたライフスタイル、コロナ禍を経た後の新たな過ごし方など、学内外の参加者による課題抽出、意識共有、気づき・発見、思いの伝達、相互の交流をうみだす。	ニッチを探せⅡ開催、シンポジウム「J's café Fukuoka 2022」開催による参加者の理解度の向上 期間：2022年11月-2023年2月平日10:00-17:00 場所：伊都キャンパス フジイギャラリー 対象：学内外一般 主催：九州大学キャンパス計画室 共催：Q-AOS、九州大学総合研究博物館、九州大学学術研究都市推進機構OPACK、	目標達成度：Ⅲ 「きみだけのニッチをさがせⅡ」2022年11月16日 開会挨拶：福田晋理事副学長、講演：OPACK石田賢哉事務局長、糸島市馬場貢副市長、中村貴久水道企業団企業長、参加278名 「地域の景観まちづくり」2023年2月20日 第1部 研究発表7編・報告1編 第2部講演 蕭耕偉郎、武田裕之、松下清、PD 藍谷鋼一郎、富山万里子、参加 54名
学術研究都市づくりの進む糸島半島等をフィールドとして、課題解決型の実践的教育・研究を行い、SDGsに配慮した都市活動の場を計画設計できる国際人育成を目指す。	サステナブル・デザインキャンプ開講による受講生の理解度の向上 期間：2022年8月2-10日 場所：九州大学伊都キャンパス 対象：大学院修士課程（九州大学、中国文化大学、同済大学、釜山大学他） 主催：九州大学大学院人間環境学研究院 共催：Q-AOS、BeCAT、テキサス A&M 大学、中国文化大学、同済大学、釜山大学	目標達成度：Ⅲ 「サステナブル・デザインキャンプ」2022年8月2-10日@伊都キャンパス 大学院修士課程（九州大学、テキサスA&M大学、中国文化大学、同済大学、釜山大学）学生により、糸島半島二丈地域を対象としたプロジェクトの提案を行い、一般、行政の参加を得て最終講評会を実施した。参加者：70名

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
シンポジウム2021「都市」の過去、現在、未来 ～次の100年のために今できること～ https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/topics/view/1712/
半島空間研究会 http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/itoshi/02/index.html
内閣府i-都市再生モデル調査 http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/itoshi/01/index.html
キャンパス計画室 https://campus.kyushu-u.ac.jp/index.html
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	3 件
共同研究	0 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	7 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	0 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	都市クラスター	Urban Cluster
モジュール名 /Module	鉄のグローバル・ヒストリーモジュール	Global History Module
モジュール長 /Leader	井上 朝雄 准教授	Assoc. prof. Tomo INOUE

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	<p>1)バングラデシュ・プレミア大学、ブータン王立大学、キルギス国立建設交通大学、カトマンズ大学、台北科技大学と都市遺産の保全についてのシンポジウムを開催する。</p> <p>2)インド・コルカタのジャダフプール大学との共同研究を開始し、インドへの鉄の流れの解明にあたっての協力関係を構築する。</p> <p>3)葉祥栄のデジタル・アーカイブズの構築のため、ニュー・サウス・ウェールズ大学構築環境学部コンピューテーション・デザインユニット(Code)と共同研究を推進し、展示会およびシンポジウムを開催する。</p>
English (about 150-200 words)	<p>1) To organize a symposium on conservation of urban heritage with Premier University of Bangladesh, Royal University of Bhutan, Kyrgyz National University of Construction and Transport, Kathmandu University and Taipei University of Science and Technology.</p> <p>2) To start a joint research with Jadavpur University, Kolkata, India, to establish a cooperative relationship in clarifying the flow of iron into India.</p> <p>3) To promote joint research with the Computational Design Unit (Code) of the School of Built Environment, University of New South Wales, and to organise an exhibition and symposium on the establishment of a digital archive of Shoen Yoh.</p>

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
インド・コルカタのジャダフプール大学、ハイデラバードのIITハイデラバード校、バングラデシュ・チッタゴンのプレミア大学との共同研究を開始し、インドへの鉄の流れの解明にあたっての協力関係を構築する。	左記の3大学との共同研究を開始する。	<p style="text-align: center;">目標達成度：Ⅲ</p> <p>左記3大学との共同研究を開始した。</p>
バングラデシュ・プレミア大学、ブータン王立大学、マレーシアサインズ大学、カトマンズ大学、台北科技大学、ラオス国立大学と都市遺産の保全についてのシンポジウムを開催する。	左記6大学との国際シンポジウムを開催する。	<p style="text-align: center;">目標達成度：Ⅲ</p> <p>バングラデシュ・プレミア大学、台北科技大学、ラオス国立大学、カンボジア工科大学と都市遺産の保全についてのシンポジウムを開催した。</p>
葉祥栄のデジタル・アーカイブズの構築のため、ニュー・サウス・ウェールズ大学構築環境学部コンピューテーション・デザインユニット(Code)と共同研究を推進し、展示会を開催する。	葉祥栄の展示会を開催する。	<p style="text-align: center;">目標達成度：Ⅲ</p> <p>葉祥栄の展示会を開催した。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	3 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	4 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	都市クラスター	Urban Cluster
モジュール名 /Module	Mega Region モジュール	Mega Region Module
モジュール長 /Leader	相澤 伸広 教授	Prof. Nobuhiro AIZAWA
モジュールのMission/Vision		
日本語 (300~400字程度)	<p>アジアは歴史上初めて、その人口の半数以上が都市に居住する時代に突入した。そのアジアの都市化の特徴をみると、その実態としては、都市間の連携、都市の集合体であるメガリージョンが一つの経済圏、生活圈、そして社会を形成している。これはまさにアジアのダイナミズムを象徴する社会現象である。経済発展のエンジンにも、社会的不和の震源地にもなりつつメガリージョンは、現代を象徴するアジアに特徴的な現象を研究であるがゆえ、新しい手法と研究ネットワークが求められる。したがってモジュールはメガリージョンの枠組みでこそ研究可能な社会的諸課題を研究・教育する。</p>	
English (about 150-200 words)	<p>For the first time in history, half of the population in Asia are now urban residents. To be more precise, these population interconnects multiple cities through their economic activities and livelihoods, formulating an unprecedented scale of urban sphere coined as "Mega-region". This is a geographical space which could become both the growth engine of the entire region and also where deep social cleavages and conflicts could arouse. Our module, the research group is, therefore, establishing a research hub to identify key issues that could be best addressed with the framework of a "Mega-Region" and to formulate an education hub for like-minded students.</p>	

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
都市間ネットワークの強化に係る産官学連携 研究・教育	福岡都市サミット 2022における 首長特別セッション開催。都市圏間の課題および解決策の共有を企図した福岡市との連携研究・教育	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>福岡都市サミット2022においてはセッション企画段階から関わり、ポストコロナの「ニューノーマルのまちづくりにむけた行動」と言うテーマで、各都市の新たな都市ガバナンスにおける知見の共有と協働機会の創出を企図し、福岡市長をはじめ、アジア各都市の首長らと第13回アジア太平洋都市サミットを実施した。同セッションにおいては、とりわけ福岡市の他、長崎市、大分市、イポー市、オークランド市そしてOECDの代表者との連携を深めた。</p>
アジア主要メガリージョンの主要課題にかかわる研究・ワークショップ実施	チュラロンコン大学、香港バプティスト大学、インドネシア大学、タイ行政学院 等との国際連携を通じたワークショップ等の開催。とりわけ、メガリージョンにおける社会的亀裂、行政課題をめぐりポリティクスにかかわる研究者との協働。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>チュラロンコン大学ピット・ボンサワット政治学部政治学科学科長、および、タイ行政学院チュンボン・アウンパッタナシップ講師らとバンコク都知事選をめぐりシンポジウムを開催。アジア主要メガリージョンであるコロナ期、ポストコロナ期のバンコク首都圏がかかわる政治社会問題について詳細を議論。加えて、インドネシア大学経済学部長テグ教授とコロナ後のジャカルタ首都圏における低所得者層におけるセーフティネット、社会的正義にかかわる共同研究を開始。</p>
JICAチェアプログラムとの連携構築および研究教育プログラム実施	JICAが実施するJICAチェアとの協働により、日本およびアジア地域、さらにはオーストラリアと都市圏開発にかかわる現代的経験の共有方法にかかわるプログラムづくりを準備。日本の大都市圏開発の知見の共有手段を構築。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>JICAチェアプログラムと連携し、カンボジア、王立ブノンベン大学にて講義実施。ブノンベン首都圏における上下水道整備を中心とした都市圏開発にかかわる国家間の現代的経験の共有を实践。加えて、カンボジア外交研究所にても国際協力における都市間協力の重要性について、知見の共有を実施した。またオーストラリア国立大学ジャパンプログラムと都市圏開発にかかわる意見交換会実施。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://q-aos.kyushu-u.ac.jp/en/events/events-mutual/2531/
https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/events/view/1452
https://apcs.city.fukuoka.lg.jp/apcs13th-archive-jp/
https://apcs.city.fukuoka.lg.jp/13thapcs_report_highlight/
https://fukuoka.unhabitat.org/wp-content/uploads/2022/07/APCS13th_チラシ.pdf

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	3件
モジュール共催イベント	3件
共同研究	0件
単著論文	1件
共著論文	0件
学会発表（国内）	0件
学会発表（海外）	6件
交流関係	0件
教育活動	2件
協定	0件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	都市クラスター	Urban Cluster
モジュール名 /Module	Governanceモジュール	Governance Module
モジュール長 /Leader	出水 薫 教授	Prof. Kaoru IZUMI
モジュールのMission/Vision		
日本語 (300~400字程度)	自治体におけるSDGsの評価指標をつくるため、国内における自治体の取り組みについて事例研究をおこなう。定例研究会を実施し、現地調査をおこなう。また韓国との国際比較もおこなう。	
English (about 150-200 words)	To develop indexes for evaluate on activities of SDGs it will be studied how SDGs programs of local governments work through cases.	

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
Q-AOSの田中准教授も交え、福岡県地方自治研究所とともに、地方自治総研の研究支援を申請し、その資金を利用して、①SDGs未来都市に選定されている全自治体へのアンケート調査を実施し、②福岡県下の選定自治体（北九州市、大牟田市、福津市、宗像市）への訪問調査をおこなう。	地方自治総合研究所の補助金を申請し受給した上で、以下を達成する。 ①SDGs未来都市に選定されている全自治体へのアンケート調査を実施する。 ②福岡県下の選定自治体を少なくとも一つ、さらに長崎県対馬市への訪問調査をおこなう。	目標達成度：Ⅲ ①全数アンケート調査の実施の前にパイロット調査の実施をおこなうことに計画を変更した。 ②パイロット調査として、対馬市と、福岡県下の全指定自治体、北九州市、大牟田市、福津市、宗像市、直方市の訪問調査をおこなった。 ③上記の調査により、来年度はアンケート票を作成し、全数調査が可能となる。
韓国の研究者とSDGs政策に関する研究会（オンライン）を実施する。また昨年度同様に、公開でシンポジウム（対面とオンラインを併用）を開催する。	①9月までに韓国の研究者との遠隔共同研究会を最低限一度実施する。 ②10月以降に、日韓シンポジウムを開催する。	目標達成度：Ⅰ 今年度は、想定していたカウンターパートの事情により、結果として実施できなかった。 来年度は、ソウル市立大学と、新たに共同研究を開始する方向で調整中である。
システム情報の池田准教授の協力を得て、上記自治体調査と連動させながら、自治体SDGsを対象としたEBPM支援のAIシステムの構築を開始する。その一環として先進事例である対馬市の調査をおこなう。	現在申請中のQ-AOSの資金を受給できる前提で、対馬市の自治体SDGsの現状を調査し、EBPM支援のAIシステム構築のための基本論点を整理する。	目標達成度：Ⅲ 上記のように対馬市ならびに、福岡県下の指定5自治体のすべての調査に池田准教授の協力を得られた。 それら自治体の関連政策文書について、指向的なテキスト解析をおこなった。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	0 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	都市クラスター	Urban Cluster
モジュール名 /Module	Inclusive Wealthモジュール	Inclusive Wealth Module
モジュール長 /Leader	馬奈木 俊介 教授	Prof. Shunsuke MANAGI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	今年度の目的は、感染症や震災、そして人口減少という問題を念頭に、持続可能な発展を実現するための経済学的ビジョンを提示することである。持続可能性を研究する際に参照すべき「包括的な富(新国富指標、IWI)」がある。Managiは、この最も代表的な国連指標に関する国連報告書を2014年は執筆者として、2018年は代表者として取りまとめデータ公開を行った。今年度は、健康や病気の価値を健康資本として、また自然資本を理論・実証化し、アジア・オセアニア諸国を対象に大幅に発展させる予定である。
English (about 150-200 words)	This project aims to provide a vision for sustainable development in the context of the new era while focusing on modern-day challenges such as infectious diseases, natural disasters, and decreasing population. Managi compiled and published data on the UN report on this most representative UN indicator as an author in 2014 and as a representative in 2018. This year, we plan to significantly develop the value of health and illness as health capital and natural capital as theory and empirical evidence for Asian and Oceanian countries.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
本研究では、過去の炭素除去量を算出する既存モデルに基づき、日本特有の自然環境や環境管理政策を考慮し、炭素除去量におけるより精度高い予測モデルを構築する。	炭素除去量の予測モデルを構築し、森林経営管理・植林による炭素除去量の予測モデルを実装することを目指している。	<p style="text-align: center;">目標達成度：Ⅳ</p> <p>論文として作成し、すでに出版されている。</p> <p>① Takeda, Shutaro, et al. "UNITY: Kyoto Fusionneering's Unique Integrated Testing Facility for Fusion Power Generation." Fusion Science and Technology (2023): 1-6.</p> <p>② Zulfhazli, Alexander Ryota Keeley, Shutaro Takeda, and Shunsuke Managi. "A systematic review of the techno-economic assessment of various hydrogen production methods of power generation." Sustainametrics-envisioning a sustainable future with data science 16648714 (2023): 147.。</p>
カーボנקレジット市場アプローチに基づく複数のシナリオ分析を行い、潜在的なカーボנקレジット市場を予測する。民間部門におけるカーボנקレジット取引による経済的影響と新国富指標に基づいた環境への影響を定量的に評価する。	衛星データに基づいて、九州地方を対象し、グリッドレベルの炭素除去量や潜在的なカーボנקレジット市場を予測する。さらに日本全国に拡大することを目指し、将来的には世界規模での分析を期待できる。	<p style="text-align: center;">目標達成度：Ⅲ</p> <p>論文として作成し、出版されている。</p> <p>① Rinawati, Dyah Ika, et al. "Potential for reducing CO2 emissions from passenger cars in Japan by 2030 to achieve carbon neutrality." IATSS Research (2023).</p> <p>本研究に興味のある博士課程の学生さんを指導しながら、外部向けの発表などにも参加して、研究内容について発表を行っている。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	14 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	1 件
交流関係	10 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

生存基盤環境クラスタ



近年における想定外の気候変動と急激な生物多様性の喪失に対して、生存基盤環境クラスタでは、アジア最大の生物多様性研究の拠点形成によって、アジア・オセアニア諸国の生物多様性の解明と保全、生態系機能や生態系サービスの持続的な利用を図るとともに、従来の栽培地とは異なる新たな環境の下で農作物を栽培するために、概日時計遺伝子に注目し、日長環境への適応メカニズムを明らかにします。また、汎太平洋な気象・海洋データの観測・監視システム構築に基づく地球環境変動への具体的な対応と、各国の温室効果ガスの削減、低炭素型社会の実現のためのガバナンス手法の確立を目指します。

モジュール一覧

- ◆ 生物・文化環境モジュール
- ◆ 分子・生命環境モジュール
- ◆ 地球・生物圏環境モジュール
- ◆ 環境経済・経営モジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	生存基盤環境クラスター	Sustainable Environment Cluster
モジュール名 /Module	生物・文化環境モジュール	Humanity and Nature Module
モジュール長 /Leader	荒谷 邦雄 教授	Prof. Kunio ARAYA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	近年における急激な生物多様性の喪失に対して、生物・文化環境モジュールでは、アジア最大の生物多様性研究の拠点形成によって、アジア・オセアニア諸国の生物多様性の解明と保全、生態系機能や生態系サービスの持続的な利用を図る。SDGsの目標14（海の豊かさを守ろう）、および15（陸の豊かさを守ろう）の達成に貢献する
English (about 150-200 words)	For the rapid loss of biodiversity in recent years, in Humanity and Nature Module, we are aiming by establishing the biggest base of biodiversity research in Asia, both to elucidate/protect the biodiversity in Asian and Oceanian countries and to plan to use sustainably functions and services in the ecosystem. We contribute to the achievement of goals 14 (Life below) and 15 (Life on land) of the SDGs.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
学術変革領域研究（A）「水共生学」と連携して生物多様性の解明と保全、生態系機能や生態系サービスの持続的な利用を図る。	可能な限り国内外の共通フィールドでの現地調査を進め、成果を共催のシンポジウムなどで公表する。社会実装にも努める。	目標達成度：Ⅲ 学術変革領域研究（A）「水共生学」と共済で2022年11月6日に佐賀県武雄市で公開シンポジウム「めぐみの水・わざわいの水～武雄での水共生のこれまでとこれから～」を、また2023年2月13日には石垣島でワークショップ「石垣島を巡る水共生学」を開催し、地域における生態系機能や生態系サービスの持続的な利用について地元の様々なステイクホルダーと活発な意見交換を実施した。
アジア各国の機関との共同研究を進め、アジアの生物多様性解明と保全に寄与する。	可能であれば海外を含む現地調査を実施する。これまでの調査で得られた標本サンプルを整理し、未記載種の記載やファウナの解明、系統地理学に関する共著論文を発表する。	目標達成度：Ⅱ これまでに蓄積した標本を使っての新種記載などの成果はある程度出せたが、海外での現地調査に関しては、コロナの影響が残存したため、年度末近くになって、個々の構成員が単発的な調査をやっと再開するに留まった。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://mizu-kyosei.net

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	5 件
単著論文	0 件
共著論文	40 件
学会発表（国内）	15 件
学会発表（海外）	2 件
交流関係	0 件
教育活動	4 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	生存基盤環境クラスター	Sustainable Environment Cluster
モジュール名 /Module	分子・生命環境モジュール	Biomolecule Module
モジュール長 /Leader	関 元秀 助教	Assis. prof. Motohide SEKI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	地球規模の温度環境変化にともない、現在は赤道付近で栽培されている農作物が近い将来、赤道から距離のある地域で栽培されるようになる可能性がある。温度変化にあわせて栽培地域を変えられた農作物は、新たな日長環境で栽培されることになる。熱帯性植物が日長の季節変動にどれだけ対応できるか、また日長の季節変動に耐性のある品種を作出するためにはどの遺伝子に注目すればよいか、基礎研究が求められている。本クラスターは、異なる日長環境に適応するために異なる進化をとげてきたと考えられる概日時計遺伝子に注目し、種間比較により日長環境への適応メカニズムを明らかにする。
English (about 150-200 words)	As temperatures change globally, crops currently grown near the equator may be grown in areas far from the equator in the near future. Agricultural plants that have their origin in the equatorial region will then be grown in in day-length environments novel to them. There is a need for basic research on how well tropical plants can cope with seasonal changes in day length and which genes should be focused on to produce varieties that are tolerant to seasonal change in day length. Our cluster will focus on circadian clock genes, which are thought to have evolved differently to adapt to different day-length environments, to clarify the mechanisms of adaptation to day-length environments through interspecific comparisons.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
RNAシーケンス法により得た熱帯植物（ <i>Shorea leprosula</i> ）の恒暗条件下の遺伝子発現動態の、温帯モデル植物のものと比較したときの特徴を洗い出す。	成果の公表（データベース、学会発表）	目標達成度：Ⅲ フタバガキ科木本種 <i>Shorea leprosula</i> を対象に、遺伝子発現動態を反映するRNA量の48時間にわたる定量データを分析した。発現が確認された62732 遺伝子のうち 18613 遺伝子が有意に概日周期で自律的振動を呈していることが明らかになった。本種においては、概日時計遺伝子の発現動態は温帯原産のモデル植物・シロイヌナズナとよく似ていることが確認された。引き続き種を増やし
温帯の木本植物に改良パーティクル・ボンバードメント法を用いて変異遺伝子を導入し、概日時計遺伝子の発現動態をリアルタイムモニタリングする。	手法の確立 時系列データの取得	目標達成度：Ⅲ 非モデル植物のハマカンゾウ、および同様に非モデル植物で開花時間帯が大きく異なるアサガオ2品種（九州大学系統番号Q79, QX909）の概日時計遺伝子のリアルタイムモニタリングに成功した。なお当初は木本植物による実験を計画していたが、熱帯で概日時計が多様に進化している可能性がより高いつる性草本植物を対象を変更した。
理論研究により、概日リズムと外部明暗環境との同期・非同期が、その概日リズムを有する生物の適応進化に及ぼす影響を考察する。	成果の公表（学会発表）	目標達成度：Ⅳ 論文を投稿し、以下のとおり受理・出版された。 Seki, M., & Ito, H. (2022). Evolution of self-sustained circadian rhythms is facilitated by seasonal change of daylight. Proceedings of the Royal Society B, 289(1987), 20220577.

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	1 件
学会発表（国内）	2 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	0 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	生存基盤環境クラスター	Sustainable Environment Cluster
モジュール名 /Module	地球・生物圏環境モジュール	Earth System Module
モジュール長 /Leader	市川 香 准教授	Assoc. Prof. Kaoru ICHIKAWA

モジュールのMission/Vision	
日本語 (300~400字程度)	将来的にアジア・オセアニア諸国での海洋観測データの充実を図るべく、安価で新規性のあるリモートセンシング技術を向上させる。こうした新規技術は付加価値の付いた科学論文として公表しやすいため、基礎観測データの公開に制約がかかることの多い各国の領海内の観測に対して有効な手段である。また、一般に高価な海洋観測器ではなく安価な民生品を利用して間接観測をすることで、アジア諸国での利用率を高めることに貢献できる。具体的には、ドローンや船舶に搭載する海面高度計測センサーの開発などを行う。
English (about 150-200 words)	In order to establish fruitful Asian maritime observation networks in future, novel and low-cost remote sensing technics are being developed. These new technics can provide value-added observations that are suitable for submitting to scientific journals; since basic maritime observations of territorial waters are often classified, this value-added nature is especially important to widen Asian maritime observation networks. Moreover, in order to practically spread in Asian countries, low-cost consumer products are dare to be selected as a part of indirect remote sensing methods, instead of expensive high-quality instruments specialized for operational ocean observations. Specifically, sensors to measure sea surface height on board of multi-copters or ships are to be developed.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
GPSなどの測位衛星システム(GNSS)の海面での反射信号を用いるGNSS-R手法は、全世界のどこでも利用が可能で、センサーも安価に作成できる。そこで、GNSS-R手法を用いた海洋観測をアジア・オセアニア諸国で展開する。新規性のある観測結果は比較的論文発表が行いやすいうえ、国際公開が制限されやすい領海内の海洋観測において、観測結果そのものでなく転化済データの扱いになるため公開しやすい。	応用力学研究所と台湾の成功大学は、台湾海峡を横断するフェリーに流速計を設置済みなので、さらにGNSS-R観測手法を追加してデータを収集したい。得られたGNSS-Rのデータは、流速計のデータや、台湾海洋研究センターの運用する海洋レーダによる現場観測との比較を行う。 さらに、離島との定期航行船が多いタイやインドネシアなどでも、上記と同種の観測が可能か、現地での打ち合わせ・視察を行う。 ただし、新型コロナウイルスによる渡航制限の状況に応じて、適宜計画を変更する。	目標達成度：Ⅲ
アジア・オセアニア諸国において、移動しながら観測することができる安価なプラットフォームとして、フェリーなどの商用船やドローン等の利用を考えている。これらの挙動の特性や、移動に伴う造波や風乱流の生成、モーターが発する電磁波特性や甲板からの電磁波反射特性などを理解しておく必要があり、海洋学・気象学・船舶工学・航空工学・電気電子工学など多分野にわたる知見交換を行う。	この目標に関しては、フェリーやドローンの観測時に加速度計センサーを追加したり、補助アンテナでの計測を行うなど、まず日本国内での基礎観測データの収集を行う。 ある程度基礎データが収集できたら、船舶工学・航空工学・電気電子工学などの専門家との意見交換を行う。さらに、アジア・オセアニア諸国における独自の法的な規制等についても調査する。	目標達成度：Ⅳ
GNSS-R手法のような非接触型の観測の場合、海面状態（大気海洋相互作用）や電磁波の伝搬など、海洋を専用測器で直接観測よりも、多くのパラメータに依存する。アジア・オセアニア諸国に新規性の強い観測手法を普及させるにあたり、こうした多分野にわたる知見を統合的に教育する。	海洋現場データの処理を含め、大気海洋相互作用や電磁波に関する関連多分野の基礎講義を、台湾成功大学の学生・スタッフに対してセミナー形式で行う予定。 なお、新型コロナウイルスによる渡航制限がかかる場合には、機器が設置していない状況でも説明が可能な一部分の内容をオンライン形式で行う。	目標達成度：Ⅱ

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。

また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、

各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	0 件
単著論文	0 件
共著論文	3 件
学会発表（国内）	2 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	0 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	生存基盤環境クラスター	Sustainable Environment Cluster
モジュール名 /Module	環境経済・経営モジュール	Environmental Economy Module
モジュール長 /Leader	加河 茂美 教授	Prof. Shigemi KAGAWA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	本モジュールでは、環境経済・経営学分野における先進的な分析ツールを開発するだけでなく、その実証分析を通して脱炭素社会を達成するために有効な政策の立案を行うことを主なミッションとする。また、環境経済・経営学分野における研究ワークショップを積極的に開催し、若手研究者の研究討議の場を作るだけでなく、共同研究を活性化させ、英語論文を関連分野のトップジャーナルに掲載させることを目指す。
English (about 150-200 words)	This module aims to not only develop advanced environmental and economic analysis framework but provide an effective policy necessary for achieving a decarbonized society through the empirical analysis. In addition, this module organizes research workshops for young researchers and promotes research collaborations among young researchers and publishing joint papers in relevant peer-reviewed top journals.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
今年度も引き続き、若手研究者の研究討議の場を提供する。具体的には、10月に若手研究者・大学院生を中心とした研究ワークショップ（2泊3日を予定）を大阪で開催する予定である。	昨年度同様、当該ワークショップを通して、若手研究者そして大学院生が中心となった共同研究を活性化させ、複数の英語論文を環境・エネルギー経済学のトップジャーナルに掲載させることを目標とする。	目標達成度：Ⅳ (1)2023年1月27日～29日の間に、オリビアン小豆島夕陽ヶ丘ホテル（香川県）で環境経済政策研究ワークショップを開催し、本モジュール教員・経済学部生・経済学府生による合計40件のポスター研究発表がなされた。クロージングセッションでは、優秀ポスター発表賞の授与も行われた。 (2)本モジュールメンバーによって執筆された合計8本の論文が査読付国際誌（Energy Economics誌、Journal of Environmental Management誌など）に掲載された。そのうち3本の掲載論文に関する内容が九州大学よりプレスリリースされた。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/874
https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/771
https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/710

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	0 件
単著論文	0 件
共著論文	8 件
学会発表（国内）	25 件
学会発表（海外）	25 件
交流関係	1 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

医療・健康クラスター



医療の地域格差解消や、生活水準の向上に伴う疾患増大への対応など、少子高齢化、都市化、国際化等を踏まえた健康寿命の延伸に向けた研究教育を推進します。

- ① 情報通信技術を駆使し、医療知識や経験を効率的かつ経済的な手段で共有します。
- ② 予防医療事業を展開し、無医村など医療過疎に由来する健康格差を改善します。
- ③ 高齢者の健康・福祉を取り巻く法制度や社会環境を調査し、政策提言を導きます。
- ④ デザインと医療を融合し、医療に関わる課題解決と、融合型人材の育成を行います。

モジュール一覧

- ◆ 遠隔医療モジュール
- ◆ PHC モジュール
- ◆ エイジングモジュール
- ◆ ストラテジックメディカルデザインモジュール
- ◆ 満たされない医療ニーズモジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	医療・健康クラスター	Medicine and Health Cluster
モジュール名 /Module	遠隔医療モジュール	Telemedicine Module
モジュール長 /Leader	森山 智彦 准教授	Assoc. prof. Tomohiko MORIYAMA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	<p>コロナ禍によって顕在化してきた国家間、地域間での医療格差を解消するため、これまでに行ってきたアジア太平洋地域を中心とした遠隔医療教育活動をさらに活性化させると同時に、プログラムの拡充や中央アジア地域への拡大を図る。またコロナ禍による渡航制限のため人材交流ができないため、より効果の高い遠隔教育法についてそれぞれの地域のニーズに合わせて検討を行う。さらに、これまで培ってきた遠隔教育における技術と経験を医療以外の分野にも拡大していく</p>
English (about 150-200 words)	<p>To eliminate the medical disparities between countries and regions that have become more apparent under the COVID-19 pandemic, we will further activate telemedicine programs in the Asia-Pacific region and extend it to the Central Asian region. Since human exchange programs are difficult due to the travel restrictions by the pandemic, more effective telemedicine methods to meet the needs of each region will be discussed. In addition, we will expand remote education programs beyond medicine by sharing our technology and experience in telemedicine.</p>

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
アジアを中心とした遠隔医療教育プログラムを新たな領域、新たな地域へと拡大し、国内外における遠隔医療教育をさらに推進する。	遠隔医療教育プログラムを150回以上実施し、新たに50以上の医療施設がプログラムへ参加することを旨とする。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>遠隔医療教育プログラムを159回（そのうちアジア・オセアニア地区は153回）実施し、新たに17カ国の106施設がプログラムへ参加した。</p>
中南米における早期消化管癌診断率向上のため症例検討を中心とした継続的遠隔医療教育を継続する。	中南米の各国を接続した遠隔医療教育プログラムを少なくとも2回開催し、現地のニーズに合わせた教育を展開する。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>中南米の各国（メキシコ、コスタリカ、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルー）を接続した遠隔医療教育プログラムを4回開催した。また各国を訪問してニーズに拾い上げ、遠隔医療では対応しづらい技術指導を現地で行い、効果的な医療教育を展開した。</p>
カザフスタン、キルギスタン、モンゴルといった中央アジア、ブータンやインドなどの南アジア、そしてロシアにおける早期胃癌診断率向上を目的として、遠隔医療教育プログラムを展開する。	中央アジア、南アジア、ロシアを対象とした遠隔医療教育プログラムを3回以上実施し、現地のさらなるニーズを拾い上げる。	<p>目標達成度：Ⅳ</p> <p>中央アジア、南アジア、ロシアを対象とした遠隔医療教育プログラムを30回実施した。モンゴルでは現地での医療指導を通じてニーズを拾い上げて遠隔医療でサポートし、内視鏡医が全体的に不足しているラオスに対しては現地の指導医を育成するための遠隔医療教育を開始した。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/eng/ アジア遠隔医療開発センター ホームページ

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	2 件
モジュール共催イベント	3 件
共同研究	9 件
単著論文	0 件
共著論文	17 件
学会発表（国内）	29 件
学会発表（海外）	15 件
交流関係	61 件
教育活動	165 件
協定	1 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	医療・健康クラスター	Medicine and Health Cluster
モジュール名 /Module	PHCモジュール	PHC Module
モジュール長 /Leader	中島 直樹 教授	Prof. Naoki NAKASHIMA

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	アジア地域におけるウィズ・コロナおよび高齢化社会を見据え、地域住民の感染症、生活習慣病、母子保健、災害被害などの健康医療課題や貧困や失業、女性差別などの社会問題を解決すべく、オンライン遠隔健診・医療サービスであるポータブル・ヘルスクリニック（PHC）による健康医療サービスへのアクセス向上（ユニバーサルヘルスケアアクセス達成）により、社会的、経済的、健康的指標の向上を目指す。同時に、これらの成果物を日本の超高齢社会の健康医療サービス向上および災害後の被害者救済にフィードバックし、リバーズイノベーションを達成する
English (about 150-200 words)	In the era of "With-COVID-19" in Asia, we are aiming to improve access to medical service, and improve social, economic and health indicators, by online remote preventive medicine service called Portable Health Clinic (PHC) (achieving universal health care access), in order to solve social healthcare-medical issues as communicable/non-communicable diseases and maternal child health, damages by disaster, and social economical/ethical issues as poverty/jobless, and discrimination against women. Simultaneously, we are aiming to achieve reverse innovation by feedback outcomes in Asia, using PHC service in super-ageing society and post-disaster situation in Japan.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
1. Monthly online meeting with University of Malaysia and/or Sabah (UMS), University of Gadjadara (UGM), Indonesia. 2. Online or face-to-face sessions at the Asia Pacific Association of Medical Informatics (APAMI) conference among Kyushu University, UMS, UGM, Grameen Communications, Bangladesh and other partners. 3. Co-design, co-implementation of PHC research activities with UMS, UGM, and Grameen Communications, Bangladesh. 4. Co-writing and joint publications with UGM, UMS, and/or Grameen Communications. 5. Co-design and co-implement social business models with UGM, UMS, and/or Grameen Communications. ☑	1. At least 12 online meetings with UMS and/or UGM 2. At least one online seminars or conferences with UMS, UGM, and/or Grameen Communications. 3. At least one joint research funding application submission with UMS, UGM, and/or Grameen Communication, Bangladesh. 4. At least one joint papers with UMS, UGM, and/or Grameen Communications. 5. Draft social business model with UMS, UGM, and/or Grameen Communications.	目標達成度：Ⅲ 1. 18 times online meetings with UMS and/or UGM 2. Two times online seminars (Asia Week PHC seminar and Social tech summit) and 5 international conference presentations with UMS, UGM, and/or Grameen Communications (APAMI, APAN/ATS, MedInfo/IMAI, Nursing Informatics). 3. Two joint research funding application submitted to e-Asia (AMED) with UI, UGM, and/or Grameen Communication, Bangladesh. 4. Seven joint papers with UMS, UGM, and/or Grameen Communications.

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://portablehealth.clinic/

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	5 件
単著論文	0 件
共著論文	7 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	6 件
交流関係	5 件
教育活動	1 件
協定	1 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	医療・健康クラスター	Medicine and Health Cluster
モジュール名 /Module	エイジングモジュール	Ageing & Later Life Module
モジュール長 /Leader	肥後 裕輝 教授	Prof. Masa HIGO

モジュールのMission/Vision	
日本語 (300~400字程度)	高齢者の就労や退職、公的年金制度の改革また高齢者の介護問題などを中心とした従来の研究課題への取り組みは継続的に遂行しつつも、本年度から、今後アジア・オセアニア地域を中心に重要な社会課題となるであろう①遠隔医療の老齢医療・介護分野への適用、②「多死社会」の到来に係る社会変革、③医師補助安楽死の是非、の3つの研究課題にも観点を広げる。この取り組みに向けて、広く国内外からこれらの分野に精通した研究者を新規のモジュールメンバーとして誘致し、またこれらの研究活動の協力者でありまた研究調査の対象ともなる、国内外の政策関係者や医療従事者、またそれらの団体などの組織レベルでのネットワーク構築も目指す。
English (about 150-200 words)	This fiscal year, while continuing to address issues related to 'active ageing' in the areas of retirement, pension, and elderly care, the Module Ageing & Later Life (ALL) will expand its research scope to the following three emerging social issues that need to be effectively addressed across Asia and Oceania in this time of both rapid population ageing and exponential advancement in ICT: (1) the advancement of 'geriatric telemedicine' (a.k.a., e-health for older people); (2) the coming of a 'death-laden' society (a.k.a., a post-super-ageing society); and (3) the legal and ethical issues of physician-assisted dying (PAD). For this purpose, the ALL will engage in (1) recruiting new module members who specialize in these fields of inquiry and (2) expanding its international networks with key non-academic stakeholders, including policymakers and communities of clinical doctors who are concerned with these fields in their daily working lives.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
Dissemination of research activities: The module aims to organize academic conferences, publish papers, and for-public education events in order to disseminate (tentative) outcomes of its multidisciplinary research activities.	During this fiscal year, this module aims to: (1) Arrange and carry out at least one Ito Campus-based international symposium, mainly featuring new module members as guest speakers; (2) Publish at least three peer-reviewed journal articles in the relevant; and (3) Hold at least one workshop for non-academic audience for education purposes.	目標達成度：Ⅲ The restrictions imposed by the COVID-19 pandemic interrupted the scheduled activities to some extent. Despite the obstacles, all the three areas of objectives have successfully been achieved, including the number of publications and conference presentation.
Expansion of institutional/individual network: The module aims to continue expand its research network at both institutional and individual researcher level in order to strengthen its capacities for internationally collaborative research and education/teaching services.	During this fiscal year, the module aims to: (1) Recruit at least two more international researchers who have established their names in the field of ageing. (2) Recruit at least one international researcher who are relatively young in his/her research career in the field of ageing. (3) Initiate research collaborations with at least two new overseas institutions (academic or non-academic) dedicated to age-related issues.	目標達成度：Ⅳ The module was successful especially in the areas of (1) and (3). A total of six new international members have joined the module and have already contributed to generating some research outcomes, including organizational networking, journal article publications, and conference presentations.
Focus on a new theme – a 'post-ageing' society and its challenges: In both research and teaching activities, this module will expand its focus to a new theme in the area of ageing and later life: a 'post-ageing' society. The module will then plan and carry out the first stage of field research to start gathering empirical data (quantitative and qualitative) on the new society and its impacts or implications to health, wellbeing, and welfare of older people in selected regions of Asia and Oceania.	During this fiscal year, this module aims to: (1) Design and carry out a pilot study of future policymaking in China, Japan, Singapore, and Taiwan by meeting key policymakers and experts in the area of retirement and public pension. (2) Design and carry out a pilot study of people's perceptions and attitudes towards end-of-life decisions – including euthanasia and physician-assisted suicide in China, Japan, Singapore, and Taiwan. (3) Design and carry out a pilot study of the current and future development and use of telemedicine (e-health) in the field of geriatrics in China, Japan, Singapore, and Taiwan.	目標達成度：Ⅳ In this area of objectives, the module has generated outcomes that are more than initially expected. Some module members have already published a total of four peer-reviewed journal articles, that are well circulated in both academic and non-academic (e.g., policymaking) communities.

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	5 件
モジュール共催イベント	7 件
共同研究	6 件
単著論文	6 件
共著論文	8 件
学会発表（国内）	2 件
学会発表（海外）	12 件
交流関係	4 件
教育活動	3 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

(各モジュール長提出様式)

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	医療・健康クラスター	Medicine and Health Cluster
モジュール名 /Module	ストラテジックメディカルデザインモジュール	Strategic Medical Design Module
モジュール長 /Leader	平井 康之 教授	Prof. Yasuyuki HIRAI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	デザインの課題発見と解決のプロセスを理解し、医療フィールドにおける課題を解決する戦略や方法論を構築し、その遂行と実証を担うことができる人材育成を行う。具体的には、患者や医療従事者などのデザインを専門としない多様なステークホルダーにも取り組みが可能なデザイン思考のアプローチをデザイン関係者と共有することで、1) ワークショップや演習型授業を利用した融合型人材の育成を行うこと、2) 医療に関わる課題を解決するデザイン提案と実装化を行うこと、3) 患者や医療従事者などの利用者の視点から課題を解決する方法論を構築することを目指す。
English (about 150-200 words)	Strategic Medical Design (SMD) Module is aiming at interdisciplinary education by integrating design and medical expertise and solutions for medical issues. Design thinking approach with non-designers (such as patients and medical staff) and designers for co-creation is the key activity, and the followings 3 points are the goals: (1) Interdisciplinary education by workshops and project-based education program (2) Design proposal and implementation (3) Methodology and strategy from patients and medical staff points of views

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
Ⅲ：目標を十分に達成している
Ⅱ：目標を十分には達成していない
Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
今年度は「医療・ケア現場のウェルビーイングデザインの実践的研究」と題し、医療や介護現場でケアする人、される人のウェルビーイングをテーマとして具体的な活動を行う。1) (国際連携と成果発表) 下記2と3の活動内容の成果をもとに医療介護デザインに興味のある学生や若手研究者向けの国際シンポジウムを行う。アジアの大学との連携確立を目指す。	1) アジアの医療デザイン系大学との連携 1件 2) 「医療・ケア現場のウェルビーイングデザインの実践的研究」に関する国際シンポジウム 1件 3) デザイン系学会で発表 2件*具体的な提携先として、昨年度から交流を始めた中国の湖南大学デザイン学科、医療デザイングループ、李子龍 (Zilong LI) 准教授との研究を想定している。	目標達成度：Ⅲ アジアの医療デザイン系大学との連携については、2022年11月に中国湖南大学設計芸術学院工業デザイン科学子龍助教に、Asia Week 企画、第2回医療Xデザイン連携セミナーに講演者として参加いただき、連携を始めることができた。また、2022年7月にバンドン工科大学「Place Sense」教育プロジェクト連携で、「Care Design to Place Design」というタイトルで発表を行った。目標を上回る2件を達成した。「医療・ケア現場のウェルビーイングデザインの実践的研究」に関する国際シンポジウムは、Asia Week 企画、第2回医療Xデザイン連携セミナーを開催した。目標の1件を達成した。デザイン系学会で発表については、Mirai2.0で発表を行った。
2) (口腔外科の子供用診療椅子デザインプロジェクト) 子供用診療椅子について、昨年度の2つの試作をもとに新たな試作を開発する。その試作について中国の医療系デザインの大学と共同で、日本と中国の医療従事者とユーザーの評価を行う。結果については論文化する。	1) 子供用診療椅子の2021年度の一次試作を改良した試作1件 2) 研究内容を中国語に翻訳し、日本と中国の医療従事者と親子ユーザー (子が患者) による評価 (上記試作をコ・デザイン評価法によりウェルビーイング要素評価) 3) 社会実装化取組み1件 (九州ヘルスケア産業推進協議会連携) 4) 成果の論文化	目標達成度：Ⅲ 子供用診療椅子の2021年度の一次試作を改良した試作については、1次試作を改良した2次試作を完成し、ユーザー評価を行った。日本と中国の医療従事者と親子ユーザー (子が患者) による評価については、ウェルビーイング要素評価については、学会発表を行なったが、コロナの影響もあり、中国語についてはまだ準備中である。社会実装化取組みについては、きさく工房、有園製作所、コーヤデザインの3社に商品化について打ち合わせを行なった。実装化には至っていないが、現在継続中である。成果の論文化については、デザイン学会第5支部ライトニングトークで発表し、ベストトーク賞を受賞した。
2) (高齢者のフィットネスデザインプロジェクト) フィットネス動画について、昨年度制作の動画の中国語バージョンを作成し、日本と中国の介護従事者と高齢者による評価を行う。共通点として高齢者が積極的に参加したいコンテンツになっているかどうかの評価と、相違点として文化の違いによる配慮すべき点を検証する。結果については論文化する。	1) フィットネス動画の2021年度の一次試作の中国語版試作1件 2) 日本と中国の医療従事者と親子ユーザー (子が患者) による評価 (上記試作をコ・デザイン評価法によりウェルビーイング要素評価) 3) 社会実装化取組み1件 (九州ヘルスケア産業推進協議会連携) 4) 成果の論文化	目標達成度：Ⅲ フィットネス動画の2021年度の一次試作の中国語版試作については、フィットネス動画プロトタイプは3本完成した。中国語については継続中である。日本と中国の医療従事者と親子ユーザー (子が患者) による評価については、ウェルビーイング要素評価については、学会発表を行なったが、コロナの影響もあり、中国での調査は準備中である。社会実装化取組みについては、フィットネス動画プロトタイプは3本完成し、社会実装化に向けて継続中である。成果の論文化については、Mirai2.0で発表を行った。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。

また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://www.hcd-hub.jp/magazine/5019
https://www.temdec.med.kyushu-u.ac.jp/data/report/jp/1637.pdf
https://design.kyusan-u.ac.jp/jssd5th2022/index.php/乳幼児のための口腔診療台のデザイン研究
https://
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、

各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	3 件
学会発表（国内）	7 件
学会発表（海外）	5 件
交流関係	1 件
教育活動	1 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

(各モジュール長提出様式)

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	医療・健康クラスター	Medicine and Health Cluster
モジュール名 /Module	満たされない医療ニーズモジュール	Unmet Medical Needs Module
モジュール長 /Leader	戸高 浩司 教授	Prof. Koji TODAKA
モジュールのMission/Vision		
日本語 (300~400字程度)	顧みられない熱帯病を初めとするアジアオセアニア地域に特徴的な満たされない医療ニーズを充足すべく、橋渡し研究収集シーズの展開を行う。臨床研究基盤整備と品質の高い臨床試験実施とを並行して行う。新規治療の開発によりニーズを埋め、同時に新たな現地のニーズを掘り上げて次の開発・臨床試験につなげる。また各国の薬事規制に対応、相違点を比較する規制科学研究を行い、効率的開発が行える環境を整備する。	
English (about 150-200 words)	In order to meet unmet medical needs in the Asia-Oceania region, including neglected tropical diseases, we aim to bring new medical technologies from bench to bedside/daily lives and back by establishing a clinical research infrastructure and conducting high-quality clinical trials. We will fill the unmet needs with new treatments, and at the same time, incorporate local needs into the next clinical development. In addition, we comply with pharmaceutical regulatory requirements in each country, and our another goal is to create an environment for efficient international collaborative clinical studies with conducting regulatory science research on comparing the regulations among different countries.	

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
Ⅲ：目標を十分に達成している
Ⅱ：目標を十分には達成していない
Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
アジア各国の医療機関などをサテライト施設、九州大学病院を中心施設とするDCT実施を可能とする、DCTに関する教育・および人材育成を行う。	日本型DCTを九州大学が国内のアカデミアの先陣を切って整備し、日本におけるデファクトスタンダードを目指し実践する。そのために必要な、研究者・研究支援者に対する教育シラバスを作成する。	目標達成度：Ⅲ 九州大学病院で、分散型治験を実施するための「要素」開発を行った。それらの「要素」に関わる、院内の職種や、連携先の病院・企業を洗い出すことができた。各登場人物を集めて、模擬で治験をシナリオに沿って実施することで、動きの不備を洗い出すことができた。次に現実的に分散型治験を実施する場合は、同じようにシミュレーションを立ち上げて準備をする、という手順を確立することができた。
遠隔医療モジュールと協力してオンライン診療のDcTへの応用を行う。	オンライン診療の現状を調査し、導入に必要な項目、DcT応用への障壁を整理する。	目標達成度：Ⅲ 治験専用のオンライン診療ツール(D to P 型)を導入した。 以下のような課題を抽出： サテライト施設や被検者自宅のICT環境 保険診療を併用する場合には施設届とe-learning受講が必要 既存のオンライン診療システムは1対1の診療しかできない オンラインシステムのCSVや監査証跡などへの対応 DCT用オンライン診療システムの導入・維持コスト DCT用オンライン診療システムは保険診療部分の診療費徴収が困難 サテライト施設にある患者情報や保険証情報の実施機関への送付法 オンライン診療の予約調整 緊急時対応について実施機関、サテライト機関、被検者で事前協議が必要

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	8 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	0 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	6 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	1 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

セキュリティ・防災クラスター



現在、アジア・オセアニア地域では、越境犯罪や感染症の流行といった非伝統的安全保障問題、情報技術の進歩が国家や社会にもたらす影響、高齢化や都市化の進展などによる政治・経済・社会秩序の不安定化、地震や津波、火山の噴火、台風、集中豪雨などの自然災害など、様々なセキュリティ課題に直面しています。本クラスターはこれらの課題の実態を解明し、防災や減災、復興への取り組みを支援し、政策提言などをおこないます。

モジュール一覧

- ◆ セキュリティモジュール
- ◆ 防災モジュール
- ◆ 3ZERO モジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	セキュリティー・防災クラスター	Security and Disaster Prevention Cluster
モジュール名 /Module	セキュリティーモジュール	Security Issue Module
モジュール長 /Leader	鬼丸 武士 教授	Prof. Takeshi ONIMARU

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	東アジア、東南アジア地域を対象に、地域が現在直面しているセキュリティー上の課題、具体的には感染症や越境犯罪といった非伝統的安全保障問題、情報技術の進歩が国家や社会にもたらす影響、高齢化や都市化、地方の空洞化といった政治・経済・社会秩序の不安定化、それに起因する人々の生活の不安定化といった問題群に対して、政治学、地域研究、社会学、歴史学、言語学といったアプローチを活用しながら、現場での課題の実態を解明し、その解決策を現地の人と共に考えていくことを目的とします。
English (about 150-200 words)	In contemporary East and Southeast Asia, we face several security issues. These security issues are non-traditional security issues such as infectious diseases, trans-national crimes, and traffic in person; enhancing surveillance by states and societies utilizing advanced information technologies; political, economic, and social instabilities caused by rapid demographic changes, urbanizations, inequalities, poverties, environmental destructions, and so on. This module reveals the current conditions of these threats at the grassroots levels through the political, regional, social, historical, and linguistic approaches and tries to find a way to solve or mitigate the negative impacts of these threats with local peoples.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
近代以降のアジアの公衆衛生、警察、サーベイランスの実態に関するオックスフォード大学との共同研究	英文編著の編集を終わらせ、出版する。東南アジア地域での公衆衛生史に関する研究を実施する。サーベイランス情報の回覧・ネットワークに関する共同研究をスタートさせる。	目標達成度：Ⅲ 英文編著については現在編集の最終段階に入り、2023年度中に出版することが出来るところまで来ている。サーベイランス情報の回覧・ネットワークに関する共同研究は、関係する研究者と2022年度中に3回、研究会を開催し、研究内容の検討をおこない、鬼丸を代表者とする基盤研究(A)への申請をおこなった。この申請は採択され、2023年度から科学研究費補助金を使用した研究活動を開始する。
アジアの都市化が引き起こす社会、経済、政治不安の現状とその解決策に関する研究	日本大都市圏における流動的労働者（外国人・寮付き派遣・日雇い労働者）をめぐる地域ガバナンス（ローカルな支援ネットワークを中心に）についての研究を実施する。	目標達成度：Ⅲ 大阪や福岡などの日本の大都市圏だけではなく、香港などのアジアの大都市圏における流動的労働者をめぐる支援ネットワークにかんする研究を実施し、2022年度に国際ワークショップを1回開催した。
東アジア、東南アジア地域を対象にした、オンサイト・オンデマンド教育の実践	九州大学の学部生、大学院生を対象に、東アジア、東南アジア地域でのセキュリティー・防災をめぐる課題を現場で検討する教育モデルを構築する。今年度は主に日本国内を対象に活動を実施する。	目標達成度：Ⅲ 熊本における防災や震災からの復興に関する現地調査を2023年3月に共創学部生と大学院生を対象に実施した。また新型コロナウイルスのパンデミック対策をどう考えるのかについての講演会を、共創学部生を対象に東北大学の押谷仁教授を講師として開催した。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	1 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	2 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

(各モジュール長提出様式)

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	セキュリティー・防災クラスター	Security and Disaster Prevention Cluster
モジュール名 /Module	防災モジュール	Disaster Prevention Module
モジュール長 /Leader	三隅 一百 教授	Prof. Kazuo MISUMI

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	日本を含む東アジア、東南アジア地域は、火山の噴火や地震、津波、台風、突発的豪雨といった様々な自然災害に直面している。本モジュールは、これらの災害によって被災した人々の復興への取り組みを支援し、復興に至る道筋で直面する様々な課題を、主に社会調査の手法を用いながら明らかにすることを目的とする。また、自然災害で被災するのは人間だけではない。熊本震災時の熊本城のように、地域の人々にとって大切な意味を持っていた歴史建造物や史跡もまた被害にあう。本モジュールはこういった歴史建造物や史跡の防災、復興を考古学の知見を活用しながら支援し、被災地の社会や人だけではなく、地域の歴史的共有財産までを対象として活動をおこなう。
English (about 150-200 words)	We are frequently hit by natural disasters such as earthquakes, tsunami, volcanic eruptions, typhoons, floods, and torrential rains in East and Southeast Asia. This module mainly focuses on restoration and rehabilitation phases, reveals problems and difficulties sufferers face by conducting social surveys and field research, and tries to support sufferers. Natural disasters destroy not only societies and human lives but also historical remains and monuments, which play essential roles among local communities and peoples. Therefore, this module also focuses on these historical remains and analyzes suitable ways to protect and reconstruct them from natural disasters by utilizing archeological approaches.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
 Ⅲ：目標を十分に達成している
 Ⅱ：目標を十分には達成していない
 Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
令和3年度に武雄市で実施した防災とまちづくりに関する市民意識調査のデータ分析を行う。それとともに水害と地域の歴史に関する学際的なフィールド調査を行う。それらの結果を報告書やワークショップによって武雄市役所および武雄市民に還元し、ともにまちづくりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 武雄市で実施した市民意識調査の報告書を公表する。 市民意識調査を含む調査結果をふまえて武雄市でワークショップを開催する。 	<p>目標達成度：Ⅲ</p> <p>令和3年2月に、Q-AOS予算と武雄市の協力により「武雄市防災とまちづくりに関する調査」を実施した。（20～80歳の武雄市民対象。計画サンプル3,000、郵送法、回収930、回収率31.0%）。</p> <p>調査報告書を令和3年7月に武雄市および報告者のホームページで公開した。また、11月6日に武雄市で開催されたシンポジウム『めぐみの水・わざわいの水 武雄での水共生のこれまでとこれから』において講演を行い、調査結果からみえる防災・減災の課題を市民に問いかけた。</p> <p>また、未来共創リーダー育成プログラムの授業と武雄市役所職員の研修を兼ねた「武雄未来共創ラボ」を実施した。初回8月1日と、第2回9月14日は、報告者が調査データの分析結果を詳細に報告し、地域の防災課題についてグループワークを行った。11月には市職員とプログラム学生合同で、いくつかの地域で現地ヒヤリングを行った。令和4年1月20日の「ラボ」で、学生による地域づくり提案の発表をふまえたワークショップを行い、調査結果を政策に生かす方策を議論した。</p>

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://isgs.kyushu-u.ac.jp/~kmisumi/index.html

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	0 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	3 件
学会発表（海外）	0 件
交流関係	1 件
教育活動	0 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	セキュリティー・防災クラスター	Security and Disaster Prevention Cluster
モジュール名 /Module	3ZEROモジュール	3ZERO Module
モジュール長 /Leader	アシル アハメッド 准教授	Assoc. prof. Ashir AHMED

モジュールのMission/Vision	
日本語 (300~400字程度)	SDGsでは2030年までに達成すべき目標が設定されているが、COVID-19の影響により、早急に取り組むべき目標について優先順位をつけることが求められており、特に失業、富の集中、気候についての問題などが顕在化している。 若い世代は、今後大きな雇用の安定性についての問題に直面することが想定され、知能ロボットから自らの仕事を守るため、より革新的であることが求められる。AIの力は、一握りの人間によって設計され、操作されるべきではない。 本モジュールでは、3ゼロ（3ZERO：AIの不当使用による失業のゼロ、富の集中による貧困のゼロ、CO2純排出のゼロ）を達成するため研究活動を推進する。アジア諸国の若い人々が、起業家精神を持ち、現代の最も差し迫った社会問題や環境問題を解決するためのアイデアを出し、創造力を発揮し、中心となって取り組むことができる様、活動を実施する。
English (about 150-200 words)	SDGs are set to achieve by 2030. COVID-19 alerts us to prioritize goals that need immediate attentions. Unemployment issue, wealth concentration issue, climate issue became more visible. The young generation will face a big employment security. They will need to be more innovative to protect their jobs from Intelligent robots. The power of AI should not be designed, controlled by a handful number of people. The module will promote action oriented research to achieve 3ZEROS (ZERO Unemployment due to unfair usage of AI, ZERO Poverty due to wealth concentraion, ZERO net CO2 Emission). The module will engage young populaiton from asian countries to ideate, create and lead with their entrepreneurial spirit to solve the most pressing social and environmental issues of our time.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

Ⅳ：目標を上回って達成している

Ⅲ：目標を十分に達成している

Ⅱ：目標を十分に達成していない

Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
Create a team consisting Asian and Ocenian Universities to initiate dialogs, co-create education activities on the upcoming social and global issues beyond SDGs. The core objective is to facilitate the young generation to reimagine their future. The specific goals are to (a) facilitate the next young students to be aware of the upcoming social and global risks (b) ignite their creativity to be smart enough to be able protect their jobs from intelligent robots.	1. Setup a small team of 10 members from Asian and Ocenian organizations. 2. Design a 8-week 3ZERO Leadership Challenge Program to engage 25+ young students from Asian and Ocenian countries and create their social fictions.	目標達成度：Ⅲ 1. [90%] We successfully setup the team. Members include from Japan, Malaysia, Thailand, and Bangladesh. Will add more members next year. 2. [100%] 3ZERO Leadership Challenge Program was designed and executed. The program connected 64 Asian Gen Z members and selected 25 enthusiastic students to create their own social fictions about a life of a young person in 2050. Students from 9 Asian and Ocenian countries actively participated. Three awards were provided. All the successful participants received certificates signed by Nobel Laureate Professor Yunus and QAOS Executive Research Director Prof. Shuji Shimizu.
Introduce 3ZERO concept among Kyushu University young students and link them with activities in other Asian and Ocenian young students. The students will be able to build a network with a common objective.	1. Discuss with QREC and SBRC in Kyushu University to introduce 3ZERO concept in their Education Programs. 2. Engage Yunus Centre (3ZERO Global Centre) with QAOS. 3. Design and build educational materials on 3ZERO	目標達成度：Ⅲ 1. [100%] Discussion was held with QREC and SBRC. SBRC agreed and became a support organization for 3ZERO iniative. Three lectures on 3ZERO were included in QREC SDGs Entrepreneurship course under Kikan Education program in Kyushu University. 2. [100%] Introduced QAOS 3ZERO aims and objectives to the 3ZERO Global Centre at Dhaka. Successfully engaged them with our QAOS 3ZLC program. 3. [90%] Educational materials on 3ZERO were created and shared with the 3ZERO students. Study materials on social problem identification, framing social issues, social fiction creation and social business model design were created and shared.
Promote QAOS 3ZERO module activities through local and global platform.	1. Introduce QAOS 3ZERO module in Global Social Business Summit organized by Yunus Centre and Grameen Creative Lab in Germany 2. Engage 3ZERO module members in SocialTech Summit to be held in Fukuoka in December 2022. 3. Report 3ZERO module activities in Asia Week organized by QAOS.	目標達成度：Ⅲ 1. [100%] QAOS 3ZERO module activities were introduced in Global Scale. One of our 3ZLC winners spoke at the 3ZERO session and introduced her ZERO net tree destruction fiction. 2. [100%] A 3ZERO session was designed and executed at SocialTech Summit jointly organized by Kyushu University and Social Business Academia Network. The summit was attended by 700+ participants from 30+ countries. 3. [70%] A session was organized during the Asia Week. The program focused only the Bangladeshi students to introduce Kyushu University as their higher study destination. More than a 100 students joined the session.

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://www.facebook.com/3ZEROLeadershipChallenge
https://https://3zero.club/

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	1 件
モジュール共催イベント	2 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	3 件
学会発表（国内）	1 件
学会発表（海外）	2 件
交流関係	3 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

文化変動クラスター



文化・政治・経済を包括する人間の営みとしての文化の変動を、長期的視野で分析・検討します。これによって、解決すべき社会的諸問題が生み出される文化的背景を明らかにするとともに、その解決のための糸口を提示し、また新たな課題を発掘します。

モジュール一覧

- ◆ 文化遺産モジュール
- ◆ 情報モジュール
- ◆ アジア-日本モジュール

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	文化変動クラスター	Cultural Variation Cluster
モジュール名 /Module	文化遺産モジュール	Cultural Heritage Module
モジュール長 /Leader	宮本 一夫 教授	Prof. Kazuo MIYAMOTO

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	文化遺産や文化財の保護への提言を行うために、環境変動史・災害史研究と人類史研究を融合させた新学術分野の創成を試みるとともに、文化遺産・文化財をめぐるさまざまな文化的・政治的・経済的諸問題を解決する。そのため、関係する国内外の研究者とモジュールのメンバーとともに、気候・環境変動と歴史遺産に関する研究会・シンポジウムを開催する。特に、文化遺産に関わる文明の発展と衰退を、気候・環境変動との関係から議論する。そうした議論の内容を、現代世界の地球環境とSDGsのあり方への参考とするとともに、何らかの提言が可能であるかを模索する。
English (about 150-200 words)	In order to make proposals for the protection of cultural heritage and cultural properties, we will try to create a new academic field that combines environmental change history, disaster history research and human history research. And we also resolve various cultural, political and economic problems related to cultural heritage and cultural properties. Therefore, we will organize the research meeting about the relationship between the environmental change and the cultural relics with related researchers from domestic and other countries. In this this meeting, we are especially going to elucidate the rise and fall of the civilization related with the environmental change. These discussions and research results should help solve the issues about the environmental change and SDGs of present days.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
グラスゴー大学が持つ日本文化遺産関係資料を調査し、その意義にかかわるシンポジウムを九州大学で開催する。その際、グラスゴー大学の教員を九州大学へ招聘し、文化遺産の保存と活用について議論する。	グラスゴー大学との共同研究を行うとともに、グラスゴー大学が所有する日本文化遺産の意義とその保存・活用を検討するための国際シンポジウムを開催する。	目標達成度：Ⅳ グラスゴー大学と九州大学との交流は活発であり、グラスゴー大学から九州大学へ本年度は2回にわたって研究者の来訪があり、シンポジウム等に参加した。また、2023年3月6-8日にはグラスゴー大学で"Space Between / Aidagara: Landscape, Mindscape, Architecture"と題してシンポジウムを開催し、本学教員が対面で参加するとともに、多数の本学の研究者がオンラインで参加し、文化遺産の意義と活用について話し合った。 また、2022年12月16日のアジア・オセアニア機構主催のシンポジウムのGroup Session 5 "History of Metals"に参加し、本モジュールの構成員2名が講演を行った。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~kibayuboku/
https://www.imapkyudai.net/

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	1 件
共同研究	1 件
単著論文	1 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	5 件
学会発表（海外）	4 件
交流関係	6 件
教育活動	3 件
協定	1 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	文化変動クラスター	Cultural Variation Cluster
モジュール名 /Module	情報モジュール	Information Module
モジュール長 /Leader	大賀 哲 准教授	Assoc. prof. Toru Ooga

モジュールのMission/Vision

日本語 (300~400字程度)	広い意味での「情報」について、「文化変動」との関係进行研究する。ここで問題にする「情報」には、医療情報や言語情報、法に関わる情報などが含まれる。また、ここで言う「文化変動」とは、ある文化の歴史的な変化を問題にする場合と、現代という時代の中での、地域におけるバリエーション（アジアの中でのバリエーションや日本の中でのバリエーション）を問題にする場合がある。
English (about 150-200 words)	We investigate the relation between 'information' in a broader sense on one hand, and 'cultural variation' on the other. Here, 'information' includes medical information, linguistic information, legal information, and so on. 'Cultural variation' means historical changes of a culture, or regional variations of a culture.

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
ソウル大学・東洋大学との共催セミナー「グローバル・ガバナンス・セミナー」を実施	同セミナーを年に10回以上実施する。	目標達成度：Ⅳ セミナーを年に14回実施。目標を大きく上回る達成水準である。
株式会社Srurstとの共催セミナー「The Hedge」を実施	同セミナーを年に10回以上実施する。	目標達成度：Ⅱ セミナーを4回実施した。数値目標は達成していないが、これは株式会社Srurstの方針変更によるもので、引き続き企業や外部団体との連携を深めていきたい。
Asian Studies Online ConsortiumをASEANの大学機関と連携して実施。	同セミナーを11月に実施する。	目標達成度：Ⅳ 日本を含め7か国の大学がコンソーシアムを形成。50名以上が参加した。また、本コンソーシアムをもとに共同研究や共同授業などが進展した。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	19 件
モジュール共催イベント	4 件
共同研究	3 件
単著論文	0 件
共著論文	3 件
学会発表（国内）	1 件
学会発表（海外）	1 件
交流関係	7 件
教育活動	2 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構

研究教育活動報告書（モジュール用）

(各モジュール長提出様式)

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	文化変動クラスター	Cultural Variation Cluster
モジュール名 /Module	アジア-日本モジュール	Asia and Japan Module
モジュール長 /Leader	野々村 淑子 教授	Prof. Toshiko Nonomura
モジュールのMission/Vision		
日本語 (300~400字程度)	「アジアとしての日本」「アジア-日本関係」を国際的な視野から経済・文化・歴史の諸側面にわたって検討する。その際「日本から見たアジア」「アジアから見た日本」の歴史の変遷と現在について解明する「時間軸アプローチ」と、日本も含むアジア諸国の相互依存や「統合」について解明する「空間軸アプローチ」という二つのアプローチを駆使し、かつ歴史学・人文学・教育学・経済学など人文社会科学系分野の多様なディシプリンと知見を重ね合わせながら、「アジアと日本」という普遍的テーマに未来志向で挑戦する。	
English (about 150-200 words)	Our mission is to examine "Japan as Asia" and "Asia-Japan Relations" from an international perspective on various aspects of economy, culture, art, and history. Taking either the "temporal axis approach" to clarify the historical transition and present of "Asia as seen from Japan" and "Japan as seen from Asia" or the "spatial axis approach" to clarify the interdependence and "integration" among Asian countries including Japan, synthesizing various disciplines and knowledge in the fields of humanities and social sciences such as history, humanities, education, arts, urban studies, and economics, our cluster challenges the universal theme of "Asia and Japan" with future-oriented mindset.	

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
Ⅲ：目標を十分に達成している
Ⅱ：目標を十分に達成していない
Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
【『島』という枠組みの再考：近代スコットランドと日本の美術交流】本学とグラスゴー大学の近代美術史研究者(Ramona Fotiade教授等)の共同研究を踏まえ「島」という切り口(Archipelagic Thinking)からスコットランドと日本の近代美術史を再考し、それらの交流を例としながら、従来ナショナリズムの枠組みの影響が強かった近代美術史研究において、その理論的な枠組みを見直す必要性・可能性を探索する。そのためにオンライン講演(2022年8月から3回)、グラスゴー大学でのワークショップ/シンポジウム(23年2月)、グラスゴー大学で九州大学によるPerformance Artイベント(またオンラインコンサート)を開催する。	第1に、英国グラスゴー大学と九州大学の教員・学生間の学術交流を深め、グラスゴー大学が立地する英国・スコットランド圏における九州大学のブランド力を強化する。第2に、教育分野でも国際化を積極的に進める本学の魅力を高め、広人文学コースをはじめとする九州大学の国際コースの入学者数増に貢献することができる。第3に、本プロジェクトを通じてグラスゴー大学との国際研究ネットワークが形成され、各種研究資金にアクセスできるようになれば、九州大学の研究レベルを高めることができる。以上より、九州大学の研究・教育の質を国際的に発信し本学の世界ランキング向上に資することになる。	目標達成度：Ⅲ 今年度は、グラスゴー大学での日本近代美術史・建築史国際フォーラム(ハイブリッドワークショップ)に参加した他、ダンディー大学、イーストアングリア大学、セインズベリー日本芸術・文化研究所を訪問し、研究交流を深めた。国際フォーラムでは、「島」という切り口を軸に、周縁化されてきた地域への着目、越境的視点によってナショナルな枠組みで語られてきた美術史研究への再考を議論した。 その結果、英国・スコットランド圏における九州大学のブランド力強化(達成目標1点め)、広人文学コースをはじめとする九州大学国際コース入学者増加(2点目)、ならびに国際研究ネットワークによる本学研究レベル向上(3点目)のための基盤をつくることができた。
【台湾の過去から学ぶ人権と言論弾圧】人間環境学研究院を中心に展開されてきた学際的な公開講座「台湾事情(基幹教育科目一般公開講座)」の第6回目を成功させる。本年度はロシアによるウクライナ侵攻を受け、注目を集める台湾と中国の関係性について、その歴史的背景や現在の情勢について、講師との対話を重視したインタラクティブな学びの機会を学内外に広く提供する。また台湾国家人権博物館と日本台湾教育支援研究者ネットワーク(SNET台湾)による「私たちのくらしと人権の巡回展や当該テーマによる北海道大学との合同シンポジウム開催を追求する。	本企画は2018年から継続している一般公開講座「台湾講座」第6回として実施される。同講座は、コロナ禍でオンラインとなってからは世界各国から第4回556名、第5回853名の参加実績を有する。この間、九州大学・台湾スタディーズの知名度は向上を続けており、本プロジェクトが採択されればQ-AOSの認知度向上に寄与できよう。また公開講座と巡回展を行うことで、広く学生・市民が、人権、言論弾圧、民主主義の普遍的価値などを改めて見直し、現下の世界情勢を「アジアの中の日本」の問題として捉える一助となる。また台湾の人権博物館、北大との今後の共同研究の進展も期待される。	目標達成度：Ⅲ 今年度の台湾講座による一般公開講座「台湾事情」第6回は、「台湾海峡兩岸関係の起源」として、言語や文化をめぐる戦後史、中国共産党との関係、米中関係と台湾、台湾総統選挙と中国をテーマに全4回開催した。当初計画していた人権の巡回展の開催が事情により難しかったが、台湾の問題を、民主主義や人権の問題も含め歴史的、社会的、政治的観点から深く知ることにより、「アジアの中の日本」を捉える機会となった。 812名の参加申し込みののち、講座のYoutubeの再生回数は各講義1週間の限定公開で1531回を超え、別途予算にて実施した「映画を通してみる東アジア3」を併せて、台湾講座のみならず、Q-AOSの認知度向上にも貢献した。
【ロシアとウクライナについて考える】九州大学EUセンターのジャンモネCoEⅡのセミナー「ウクライナ戦争の本質(仮)」を共催することで、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の背景を、歴史研究、地域研究、経済、ビジネスなど、人文社会科学の多様な観点から掘り下げ、1990年代以降、旧ソ連東欧・中国の市場経済化により歴史的に進展したグローバル化の歯車が逆転し世界の政治と経済が再分裂に向かうのか、概して現状を保つのか、学際的に考察を行う。	ロシアによるウクライナ侵攻は、中国やロシアに隣接する台湾や日本において、従来の安全保障や経済依存の在り方等に関して様々な議論を引き起こしている。本セミナーを通じて、そうした議論が、人文社会科学の豊富な知見によって裏付けられ、学内外の議論が質的に深まること期待される。また本学内外の政治・法律・経済・歴史などの分野の研究者が参加することで、学際研究が一層進展することが期待される。	目標達成度：Ⅳ 当初予定していた九州大学EUセンター主催シンポジウム「ロシアによるウクライナ侵攻とEU」の共催の他、同センター主催のH.ジームス駐日EU代表部臨時代理大使による「日EU関係」およびM.ライテラー元駐韓EU大使による「ウクライナにおけるロシアの侵略戦争」も共催した。これら3企画(参加者は計355名)を通じて、ロシアによるウクライナ侵攻の民族的・宗教的背景、世界の政治・経済にもたらすインパクト等について活発な学際的議論が行われ、アジアの中の日本の立ち位置について考える契機が提供された。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	6 件
共同研究	1 件
単著論文	0 件
共著論文	0 件
学会発表（国内）	0 件
学会発表（海外）	1 件
交流関係	3 件
教育活動	1 件
協定	0 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

2022年度 アジア・オセアニア研究教育機構 研究教育活動報告書（モジュール用）

（各モジュール長提出様式）

1. モジュール名・モジュール長名

	日本語	English
参画クラスター /Cluster	文化変動クラスター	Cultural Variation Cluster
モジュール名 /Module	接続・モビリティ・教育モジュール	Articulation, Mobility, Education Module
モジュール長 /Leader	木村 拓也 教授	Prof. Takuya KIMURA
モジュールのMission/Vision		
日本語 (300~400字程度)	アジアにおける頭脳循環は、移動する人の教育・職業段階の接続において、文化的要因のみならず、両者の制度的差異に基づく様々な障壁が生じる。本モジュールでは、アジアにおける中高接続、高大接続、大学院での接続や、日本式教育の輸出に関する様々な方向性からの相互接続において、教育課程、試験制度、職業資格、文化適応において問題となる諸条件を抽出し、あるべきアジアにおける頭脳循環のあり方について調査研究する。	
English (about 150-200 words)	Brain circulation in Asia creates various barriers in the articulation of educational and vocational stages of mobile people, based not only on cultural factors but also on institutional differences between the two. In this module, we will investigate the ideal state of the Asian brain circulation by identifying problematic conditions in terms of curricula, examination systems, vocational qualifications, and cultural adaptation in the interconnection of junior high and high school, high school and university, and graduate school and university in Asia, as well as in various directions related to the export of Japanese-style education.	

2. 上記Mission/Visionに係る今年度の活動内容、達成目標、研究成果・達成状況

※「今年度の研究成果・達成状況」欄には、以下のⅠ～Ⅳの目標達成度と、その理由も記載してください。

- Ⅳ：目標を上回って達成している
- Ⅲ：目標を十分に達成している
- Ⅱ：目標を十分には達成していない
- Ⅰ：活動を実施していない

具体的な活動内容	今年度の達成目標	今年度の研究成果・達成状況
アジア研究拠点の展開に資するアジア各国における留学生獲得拠点の形成に資する活動として、さらなる国際交流教育の高度化を目指す。	2019年にNEEPで結んだ教育交流協定が満期を迎えるため、その交流協定の更新を迎えるにあたり、現地に渡航して、タイの教育機関との交流協定の更新を行う。併せて、教育学部における海外インターンシップ、海外フィールドワークの実施を行う。	目標達成度：Ⅳ タイの柳川高等学校附属タイ中学校およびモンゴル日本人材センターとの協定の更新を無事行った。加えて、2022年度Overseas Internshipにおいて、学生2名をモンゴルウランバートルに派遣し、海外でのインターンシップを実施した。
ポストコロナを見据え、留学生と日本人学生がチームとなり、SDGsの達成を意識した課題の設定、課題解決に向けた行動計画と解決策の提案まで、一連のプロセスをコイル型教育と地方都市を実学の間とする国際共修を新たに企画し実施する。	「農学部×工学部」、「日本人×留学生」による学際的なチームを構成し、課題発見から解決へのプロセスを、「オンライン（COIL授業）×オンサイト国際共修（現場実習）」によって行う。具体的にはJICA国際協力事業で使用される実践法（PCM）を用い、過疎化や高齢化など課題を抱える大分県宇佐市を訪問し農業・環境・生活をテーマに実施する。	目標達成度：Ⅳ 当初予定した日本における共修プログラムがコロナ禍での入国規制の不透明さから、韓国での課題解決型事業に変更し、補助金を実施のための打ち合わせ費用として使用した。事業は2023年2月から3月にオンラインでの共修に加え韓国へ9名を派遣し、現地学生とSDGsに関する共修を行った。2020年度以降初めてのSDGsに関する海外研修であり、安全面・健康面での憂慮もあったが無事達成した。目標を上回っての評価だと考える。

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

3. モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクや図表等

※モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンクがある場合は記入願います。
また、関連する図表等がありましたらご提供願います。

モジュールの研究概要や研究成果に関する外部リンク
https://

※枠が不足する場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。

4. モジュール研究教育活動状況

※モジュールの研究教育活動に係る実績等がある場合は、
各項目について件数を記入願います。

項目	件数
モジュール主催イベント	0 件
モジュール共催イベント	0 件
共同研究	3 件
単著論文	3 件
共著論文	3 件
学会発表（国内）	3 件
学会発表（海外）	1 件
交流関係	2 件
教育活動	2 件
協定	2 件

※上記以外にも記載すべき項目がある場合は、適宜追加の上、記入をお願いいたします。